

市長定例記者会見報告事項概要

令和6年11月22日(金) 午前10時30分～

1. 12月の主な行事について

(1) 第55回防府読売マラソン大会

- 市広報『情報ほうふ』の2ページ、3ページにも特集している。
- 5回の優勝を誇る川内優輝選手や東京パラリンピックで金メダル、パリ・パラリンピックで銅メダルを獲得された道下美里選手も出場される。
- 今大会からは女子選手も招待しており、大会記録の大幅な更新が期待されるところ。
- 市民の皆さんには、マラソンコースの沿道や今大会では可能となっているスタンドから、テレビ中継をご覧になりながら、選手を応援していただきたい。
- スポーツでは、これから全国大会が目白押しだが、防府からも多くの選手が出場される。
- 来月滋賀県で行われる全国中学校駅伝には、国府中学校がアベック出場する。昨年準優勝した男子は4年連続4回目、女子は6年ぶり2回目となる。
- 高校スポーツでは、春高バレーに男子が高川学園、女子は誠英高校が出場する。
- ラグビーでは、昨年に引き続き高川学園が、サッカーは男女とも高川学園が出場する。

- バスケットボールのウィンターカップに、女子は初めて高川学園が出場する。
- 出場される皆さんが練習の成果を発揮して頑張られることを期待している。

(2) 歴史観光特別講演会「毛利さまと前田さま」

- 21日（土）に、笑顔満開通りアスピラートで、歴史観光特別講演会「毛利さまと前田さま」を開催する。
- 9月から「トワイライトエクスプレス瑞風」の本市への立ち寄りが始まったが、その瑞風が立ち寄る毛利様の庭園と「兼六園」の庭園の美しさなど、共通点の多い、毛利様と加賀・前田様に焦点を当てたセミナーである。
- 当日は、毛利博物館館長の柴原直樹さんと金沢市からも市立玉川図書館近世史料館学芸員の宮下和幸さんをお招きし、特別講演を行っていただく。
- トークセッションでは、スペシャルゲストとして、歴史に大変造詣が深い、タレントの松村邦洋さんにも加わっていただくこととなっており、歴史を身近に楽しく感じていただける内容となっている。
- 是非、多くの方にお越しいただきたいと思っている。

2. ウッドデザイン賞優秀賞の受賞について

- この度、本市が応募した事業が、ウッドデザイン賞の優秀賞を受賞した。
- 木をふんだんに使用したインクルーシブ遊具を、市内全小学校区17箇所の公園に設置したことが評価されての受賞である。

- この賞は、世界的に著名な建築家である隈研吾氏が会長を務める日本ウッドデザイン協会が主催し、木を使った優れた取組みなどを表彰するもので、優秀賞の受賞は県内初となる。
- 来月４日に東京ビッグサイトで開催される表彰式において、林野庁長官から表彰を受ける予定である。
- この受賞を励みに、今後も、木を活かしたまちづくりを推進してまいりたい。

３．令和７年度予算編成方針について

- 先ほど職員に対しまして、令和７年度予算編成方針について訓示を行ったところである。
- 現在、「明るく豊かで健やかな防府」の実現を目指したまちづくりを進めているが、令和７年度においては、この流れを止めることなく、頑張っていこうと伝えた。
- そのため、現行の総合計画の総仕上げや物価高対策などを行うとともに、防府の未来に向けた取組みを進めていかなければならない。
- 一方で、物価高や人件費の影響などにより、現時点において見込まれる財源不足額が、令和６年度予算の１６億円を上回る２１億円となることや、現在、税制改正で問題になっている、いわゆる「年収１０３万円の壁」の見直し等によっては、税収が大幅に減少し、国の財政措置、補填措置がなければ、予算編成が困難であり、本市の財政を取り巻く環境は大変不透明である。

- このような状況にあっても、総合計画に掲げている重点プロジェクトの諸事業については、可能な限り推進していく。
- 国においては、本日総合経済対策が閣議決定されることになっているが、こうした国の動向等もしっかりと見極め、令和7年度当初予算は、令和6年度補正予算と一体的に編成することとする。
- 具体的には、総合計画に掲げたプロジェクトについては、事業費を的確に見積もるとともに、「財政対策検討会議」を中心に、国や県の補助事業や各種団体の補助金を積極的に活用した事業の推進や、ふるさと納税などあらゆる観点からの財源確保を図る。
- 国が拡充することとされている地方創生推進交付金も積極的に活用して防府のまちづくりに繋げていきたい。
- 国の税制改正等によってどのような影響があるか分からないが、国や県の予算編成の状況や地方財政対策等によっては、やむなく予算の再見積もりということもありうる。
- 地方創生と言われており、私としては、厳しい状況にあっても、地方創生のモデルとなるようなまちづくりを進めていきたいので、全職員と一緒に、素晴らしい予算編成となるよう取り組んでいく。